

その日、その時をただ神が知る

2011年6月14日（火）聖学院大学全学礼拝

マタイによる福音書 24 : 36

愛する皆様、おはようございます。

ご存知のように、多くの人たちは、自分たちの今のことや未来の人生を知るために、占いや星占い師などの人たちに頼ったり、病気を治してもらうなどのために、まじない師のところに行ったりします。そして、そのような占いやまじない師は、どの時代にも存在していました。今の時代はもっとたくさんいるという気がします。今はどの時代よりもたいへんな時代だからです。というのは、今、全世界のどの国でも、経済不況、金融不安、異常気象、動物、植物の細菌汚染、自然災害の頻発発生などが起きているからです。

ところが、どんなに上手な占いや星占い師でも、今から3ヶ月前の3月11日金曜日の午後2時46分に、この日本の東北地方で、世界記録を超えたマグニチュード9.0大地震、大津波、また、原子力発電所の事故が発生するという事を正しく占うことができませんでした。

聖書では、「まことの神以外のものに、未来のことを教えてもらおうとしたり、頼ったりしてはいけません」と書いてあります。

今回の事故で、たくさんの死者や行方不明者が出ました。そして、震災、また、放射能に汚染されることを避けるために、多くの人たちは住み慣れたところから出なければなりません。

それで、新しいところで、避難生活を不自由に送っています。

何故、こんなに悲惨なことが起きたのでしょうか。

聖書には「その日、その時をただ神が知る」と書いてあるように、その理由は、ただ神が知るのです。

「その神」とは、今、私達が礼拝を捧げているお方を指します。

その神は今も生きておられます。

その神は時代を超えて昨日も、今日も、明日も永遠に変わらないお方だからです。

最近、たくさんのニュースや証を通して、3月11日のマグニチュード9.0の大地震、巨大な津波が起こる前に、その神が全世界にいる多くのクリスチャンたちに「この日本のために祈りなさい」という思いを起こして下さったことを知りました。

そこで、多くの主にある兄弟姉妹たちが神の霊の感動のまま、本当に一生懸命この日本のために祈って下さいました。

今も、祈りつづけています。

もし、神の霊が導かれなかったら、多くの人たちがこの日本のために祈らなかったとしたら、これより以上の悲惨な状況がもっと起きてしまったと思います。

今日の全学礼拝は聖霊降臨日、ギリシャ語で言うペンテコステを記念する中国語礼拝です。

聖霊の御導きの中で、今、ここに集まっている私達はそれぞれの国の言葉で、神のみ言葉を讀んだり、神に祈ったりしています。

その「聖霊」とは神の霊を指します。

イエス・キリストが天に昇られる前に「エルサレムに集まって、父の約束されたものを待ち望んで、祈りなさい」と弟子たちに言われました。「父の約束されたもの」とは、聖霊が降ることを指します。そこで、弟子たちはイエズ・キリストが言われたことを素直に信じ、その約束を握りしめて一生懸命神に祈りました。

そして、時が来て、神が約束の通り、聖霊を天から弟子たちのところに送って下さいました。

その時以来、神を信じる人は、神からの感動をもっと感じられるようになりました。

聖霊、即ち、神の霊が私達のところに降られたからです。ですので、3月11日の東日本

の大震災が発生する前も今も、それらの被災地を一日も早く復興させるために聖霊が、全世界の多くの人たちにこの日本に物心両面の援助という思いを起こしつづけて下さっています。

その日、その時を人は誰も正確に知ることができないのです。

私達人間が、本当に知ることができるのは、ただこの日、この時だけです。

ですから、これから先の日々を神に委ねるしかないのです。何故なら、その日、その時をただ神が知るからです。そのため、私達は神を知る必要があります。では、私達はどうかしたら神を知ることができるのでしょうか。

実に、神を知ることが全然難しくないと私は思います。私達は心を開いて、この神の言われるみ言葉を素直に信じ、その通りにすればそれでいいのです。

そうすると、この神が私達人間の思いを超えたご自身の方法で、私達の人生を豊かに導いて守って下さいます。

この神が私達の今日、また、明日を守られるお方だからです。

聖書は「信じる人たちには奇跡が伴う」とあります。

皆様、どうかご一緒に体験させていただきましょう。

神にお祈りいたしましょう。

愛する天のお父様

今日のみ言葉を感謝します。

私達がいるのは今、この日、この時であり、私達のすべてはあなたのみ手にあるということを今日、この全学礼拝で学んだことを感謝します。私達が今日、学んだことを正しく悟ることができるようにして下さい。

私達のただ一度の人生をあなたに導かれ、守られ、楽しく送ることができるようにして下さい。そして、どうぞ豊かに祝福して下さい。

この学校の敬愛する学長先生、教職員方をはじめ、学生のお一人お一人の健康をどうか御守り下さい。

この学校のこの地域でのお働きをどうぞ御用<sup>もち</sup>いり下さい。

すべてを感謝します。

主イエス・キリストのみ名によってお祈りいたします。